

# りんぞう

2015年10月15日  
第24号

早いもので今年度ももう、下半期を迎えました。短かったけれど暑かった夏が終わり、気づけば秋も深まり紅葉の季節です。  
冬に向けてだんだんと寒くなりつつもありますが、リブインさくらの行事や活動は盛り上がりが増しています。

# 納涼祭



お昼の部は職員による出し物です。テレビ番組「笑点」でおなじみ「大喜利」(なぞ掛け)を行いました。職員がそれぞれ落語家風の名前をつける等、工夫をこらしました。

お昼の部は職員による出し物です。テレビ番組「笑点」でおなじみ「大喜利」(なぞ掛け)を行いました。職員がそれぞれ落語家風の名前をつける等、工夫をこらしました。

例えは演者の名前をもじって「いと丸」「ゆき太郎」「ぶか蔵」「ぶん平」「(吉永)さゆり」なせ一人だけ(吉永)さゆりを名乗ったかは分かりませんが…(笑)

後ろの方に座られている皆様からも良く見えるように高座もセットしました。「大喜利」とはお題に合わせて「とんちを利かせた回答をする」と言うものです。お題も見やすく大きな紙に字やイラストを使用しました。



司会者が一斉に手を挙げ指名を待ちます。いと丸・・・「今年の夏もかなり暑かったですね。気温が30度以上で真夏日、35度以上で猛暑日となりますが皆さんにはこれを笑点流にアレンジしていただききたい。」

ゆき太郎・・・「流しそうめんをしたくなるのが真夏が猛暑日。」「

いと丸・・・「一緒に流れるのは衛生的に良くないな、座布団1枚持って行って!」



と いった具合で、回答の面白さもそうですが司会者と回答者のやり取りも見所です。珍回答や面白くない回答へのつつこみ、座布団のあげる・あげない、といった即興のやり取りも受けて、おおいに盛り上がりました。



座 布団の最高獲得者には景品として「スイカ」が贈呈されました。贈呈された大玉のスイカをおやつ時間に皆様にもお分けをして甘いスイカを堪能しました。

皆様に「甘い、甘い。」と仰られ、中にはお替りを希望される方もいらっしゃいました。



夜 の部は毎年恒例ではありますがバイキング形式での夕食です。イカ焼き、帆立焼き、豚カツ、エビカツ、鶏の唐揚げ、温泉卵、ホウレンソウ、なす、南瓜、アスパラ、チーズ等の具材をトッピング



カレーのトッピングの種類が多く迷われている方もいましたがそれも楽しかった思い出になったのではないのでしょうか。

目の前の料理に食欲を刺激されたのか普段に比べて、たくさん盛り付ける方が多くなりつつありました。普段以上に箸の進みが良く、皆様、残さずたくさん召し上がっていただけました。「美味しい。」や「美味しいけど食べきれない。」といった嬉しい悲鳴も聞こえていました。

夏の暑さを吹き飛ばすには十分な笑いとお食欲でした。



# 敬老会



今年 は戦後70年の年です。ご入居者のほとんどの方が戦争を体験してこられました。そのお話しを聞くと、今の時代に生まれた私たちは本当に幸せであると再認識をさせられます。

戦中、戦後に多大な苦勞をされてきたご入居者の皆様に毎年、ささやかではありますが敬老会を開催しています。今年の敬老の日は9月21日でしたが、リブインさくらでは9月19日に敬老会を行いました。

今年、祝歳を迎えられたかたは全部で13名。(喜寿1名・傘寿5名・米寿2名・卒寿5名)



食時にはちらし寿司や茶碗蒸しなど、いっしょに楽しむメニューを取りそろえさせていただきました。お好きな物はやはりお箸の進みも良く、皆様の満足な表情が印象的でした。



食後、今度は近隣のボランティアの方々に歌を披露していただきました。三味線や尺八、太鼓のリズムに気付けば皆様、一緒に歌ったり手拍子をしたりととても楽しそうにされていました。最後の北国の春では、ご入居者、ボランティアの皆様、職員が一つになっ



て大合唱となり、楽しいひと時でした。今回、お越しいただいたボランティアの方々は、リブインさくらが開所した年から毎年のように来てくださっている方々です。メンバーの中には米寿を迎えられたという方もいらっしゃ

り、ちから強い声でも励みになりました。おやつの際には、紅白のひまわり饅頭を全員でいただき、敬老会は終了しました。





# リレーエッセイ



今回は平成27年度自衛消防訓練審査会を終えた僕たち、小野大悟と鈴木剛一が担当します。

はじめに施設長から「9月9日消防訓練行くからその日空けといてね」とかある。よくわかんないまま「はい」と返事をしました。まさかこんなことになるのは、この時は思いませんでした。

この時は趣旨を理解しておらず、ただ言われるがままに了解したので、まさかこんなことになるのは、この時は思いませんでした。

## 審査会に向けて練習の日々

そこからは台本を作り、読み合わせ、動きの確認、映像による他隊の研究をし、繰り返し練習をしていきました。声の大きさが足りないことを自覚し、喉が枯れるまで練習を続けました。練習が長引きあやうく終電を逃しそうになることもありましたが、(笑)

## 審査会当日

前日から緊張感一杯で、審査会は午後からだというのに子供の遠足のようにいつも早く目覚めてしま、勤務時間の一時以上前に出勤しました。午前中の練習で動きの最終確認をし「やれることはやった」という気持ちで会場に向かいました。



しかし、わずかながらミスが出てしまい、やりきった感と同時に悔しい気持ちになりました。審査が終わってしばらくすると、ホワイトボードに参加チームの点数が続々と書き込まれており、リブインA隊の点数もやがてそこに記されていきました。「246点」(暫定2位)思いのほか高い点数への驚きと、暫定トップとの点差が1点だったことへの無念さで一杯になりました。

最終結果が出ました。リブインA隊は優勝隊(2隊が同点優勝)と1点差の3位となり、銅メダルを獲得しました。3位になったという嬉しさも、わずかにトップに届かなかった悔しさを胸に、来年こそはとせひリベンジを誓いました。消防訓練で学んだ技術・知識、一つ一つ確認することの大切さを活かして、普段の支援はもちろん、災害時には率先してリーダーシップを発揮し、被害を最小限に抑えらるよう努めていきます。3位という成績に満足することなく常に防災意識を高く持つていたいと思います。最後にご協力、ご声援ありがとうございました。

## リブインさくら「入居されているA様」

現在、リブインさくらに入居されているA様。定年後、暫くしてから始められたというワープロで、出生からの思い出を書き綴られているというお話しを伺いました。その思い出を、このりんどうで紹介したく、ご依頼をしたところ、快く承諾をしていただきましたので、抜粋をしてご紹介させていただきます。

15歳 工場勤めで 世の中 習わしを知る

家の仕事を1年半ばかり手伝い、15歳(昭和10年)の秋、工場に勤めた。その頃は工場に勤める人たちは職工と

言われていた。作業服(職工服と言われ、今では皆が普段着として、どこでも出かけて行かれるジーンズのこと)を買ってもらい、それを着ての作業で「ワッワッ」した。

綿 スボンだけだと90銭、1円で買えるが、仕事以外は着なかった。職工と言われ、身分が下と見られるのが嫌で

勤めに出るまでは世の中の事はわからず、初めて勤めに出て色々と世間の事柄やしきたりが分かるようになる。また、職場にも友達ができ、勤めが楽しく自然に溶け込んでい

## バス連ね 社内旅行で 筑波山

社に入った翌月(昭和10年11月)はじめて社員旅行があり、皆と一緒に参加した。霞ヶ浦の海軍飛行学校を見学し、バスは筑波山へと向かう。

バスを降り麓から山頂へと歩き出す。途中に弁慶の七戻り岩がある下を潜り抜け、神社に参拝し、更に頂上へと女体山を経て、男体山の標高約8百メートルを一気に登りきる。

見習いの 期間終わりで 本工に 採用されて 辞令を受ける

昭和10年12月1日、2ヶ月の見習い期間が終わり、当日の日付で本工採用の辞令が出て、これを受け取る。会社の一員として正式に認められた。本工になると同時に労働組合の組合員となった。

組合に入るといっていると聞かれた。このことは会社と取り決めに決まっていると聞かされた。1ヶ月5銭の会費を月末に納入するが、若かったせいにか組合には何ら関心がなく過したが、それからは子飼いとされるようになった。

## 編集後記

気が付けば道行く街路樹が黄色く色づき、巷では紅葉狩りが特集される季節となりました。先日、街中を歩いていたから、どこからか「さくら」と思わせる音が...

周 困を見渡してみると、銀杏の実が歩道の隅に沢山落ちていました。銀杏を踏まないように注意しながら歩いてみると、懸命に銀杏の実を拾っている人もチラホラ。そんな風景を観て、子供の頃に近くの神社で銀杏拾いをして

いたのを思い出しました。れからの季節、美味しい食べ物も続々と登場します。たくさん食べて、たくさん運動もして、秋をたっぷり満喫しましょう

